

地域を知りさらなる貢献

大垣西濃信用金庫は23日、役職員が地元大垣市の歴史や観光資源などについて学び、地域活性化へのさらなる貢献を目指すべく「ふるさと大垣学びの会」を初めて開催した。同信金は地域密着の金融機関として各種行事や事業に積極的に職員を参加させているが、「職員一人一人がもつと街の魅力や強みを知るべき」と栗



大垣西濃信金の役職員 大垣城や奥の細道記念館訪問

田順公理事長」と企画した。この日は同市内の本部や店舗で働く役職員34人が参加し、3班に分かれて、大垣城がある同市郭町の大垣公園や同市船町の奥の細道むすびの地記念館などを訪ねた。ガイドは観光ボランティアガイド「ふるさと大垣案内の会」の種田彌生会長ら3人が務めた。大垣城付近ではガイドが役職員たちに大垣藩を治めた戸田家の話や、かつての城郭の姿、石垣の中に化石があることなど見どころを丁寧に伝えていた。

栗田理事長は「もっとお客さまを知ろう、もっと訪問しよう、もっと提案しよう」を職員の3大行動指針に掲げている。地元についてももっと知り、もっと情報発信していきたい」と話した。(古家政徳)

大垣城にまつわる話をガイドから聞く役職員たち＝大垣市郭町、大垣公園